

作型 種いもは毎年更新する。(自家用種いもはウイルス病にかかっている場合がある。) マルチ栽培すると早取りが可能となる。連作をきらうので、ナス科(なす、トマト、ピーマン等)を2~3年作っていない場所を選ぶ。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え			△△	—		■	■						メークイン・男爵・キタアカリ
夏 植 え								△△	—		■	■	デジマ・アンデス

△：植え付け ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり 1a当たり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	5kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元 肥 1a当たり	
醗酵鶏糞	20kg
畝立時施用	

- 2条植え 畝幅100~120cm 株間30~40cm (条間40cm千鳥植え)
- 深さ10cmの溝を掘り、底に元肥を施用後、間土し、いもの切口を下に向けて植える。
- 覆土は種いもの厚さの3倍程度 (5~10cm)

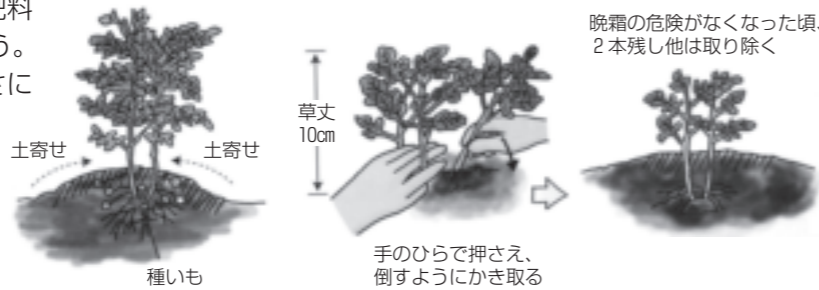
■種いもの準備
30~40gの種いもを用いる。60g以上のいもは30~40gとなるよう(芽が全て均等に付くよう)に切り、陰干し乾燥させる。

よい種いもを選ぶ

普通 伸びすぎて消耗 休眠中

間引き・追肥・土寄せ

- 草丈10cm頃：肥大促進のために太く大きい芽を2~3本残し、野菜専用肥料4~5kg/aを施用後、土寄せを行う。
- 草丈15~30cm頃：株元に5cmの厚さに土寄せをする。(2回程度)



防除

病虫害名	耕種防除	農薬による防除
アブラムシ類	光反射テープを畝上に張る	オルトラン水和剤 1,000~1,500倍 7日前まで 4回
テントウムシダマシ	捕殺を行う	アディオソ乳剤 2,000~3,000倍 14日前 4回
ヨトウムシ	早期発見し、分散前に捕殺する	エルサン乳剤 1,000倍 14日前 2回

収穫

- 地上部が枯れるまでいもは肥大し続ける。
- 3~4日晴天が続く、土が乾いている時に傷付けないように掘る。(新しいいもは皮が弱いのので、丁寧に掘り取る。)

■貯蔵
収穫したら積み上げないようにして日陰で乾かす

裏面はにんじんを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

作型 作りやすいのは、夏まきで11~12月収穫の栽培である。畑は早目に完熟堆肥と石灰を施し、15~20cmの深さに耕す。順調に生育させるには、本葉2枚目までと、根の肥大期にあたる本葉6枚目頃の水やりが大切。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春まき			○	○	—	■	■	■	■				向陽二号・陽明五寸
夏まき	■	■	■	■				○	○	—	■	■	向陽二号・夏時鮮紅五寸・金時人参 黒田五寸

○：種まき ■：収穫

畑の準備・定植

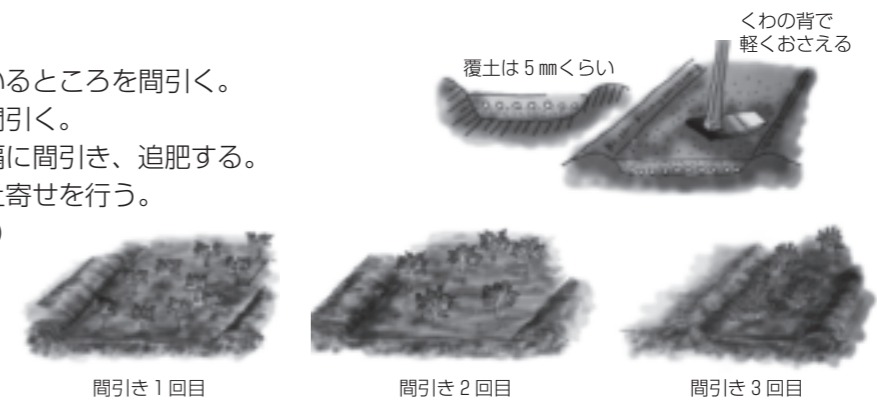
土づくり 1a当たり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元 肥 1a当たり	
醗酵鶏糞	20kg
畝立時施用	

- 春まきはビニールトンネル栽培にする。
- 2条まき：畝幅80~90cm (条間30cm) 10cm程度のまき溝を作る。
- 十分灌水してから種をばらまきし、薄く覆土(4~5mm)後、鎮圧する。(コーティング種子は10cm間隔で点まき)
- 発芽まで乾燥を防ぐため十分灌水し、濡れ新聞、切りわら並びに寒冷紗をべたがけするとよい。



間引き・追肥

- 本葉1~2枚時：こみ合っているところを間引く。
- 本葉3~4枚時：5cm間隔に間引く。
- 本葉6~7枚時：7~8cm間隔に間引き、追肥する。
- 2回目の間引き後から追肥、土寄せを行う。(追肥は1回目と反対側に施す)(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料4~5kg/a)



防除

病虫害名	耕種防除	農薬による防除
黒葉枯病	発病株を除去する 肥切れしないようにする	Zボルドー 500~800倍 ダニコール1000 1,000倍 7日前 5回
軟腐病	高温時の播種を避ける	Zボルドー 500倍
ヨトウムシ	早期に発見し、分散前に捕殺する	ランネート45DF 1,000倍 前日まで 2回

収穫

- 発芽後110~120日位で収穫の目安とする。
- 太くなったものから順に抜き取る。
- 穫り遅れないように注意する。



裏面はばれいしょを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。